青森県埋蔵文化財調査報告書　第314集

小奥戸（４）遺跡Ⅱ

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

２００２年１月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書　第314集

小奥戸（４）遺跡Ⅱ

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

２００２年1月

青森県教育委員会

序

大間原子力発電所建設に伴う遺跡の発掘調査は、過去に青森県教育庁文化課によって、遺跡の確認調査と試掘調査、及び小奥戸（１）遺跡の発掘調査がなされており、当センターにおいても白砂遺跡、小奥戸（２）遺跡等の、大間町に所在するいくつかの遺跡の調査を実施して参りました。

大間町は、本州最北端に位置し、間近に北海道を望む地理的特性のためか、過去の当センターの発掘調査でも、北海道の影響の濃い遺物を出土することが知られております。

小奥戸（４）遺跡は、津軽海峡を望む海岸段丘上に立地する遺跡です。平成８年度に試掘調査、平成９年度に発掘調査を実施しておりますが、今回報告するのは、平成１２年度に発掘調査を行った分です。調査の結果では、縄文時代の石器、奈良時代の遺物が出土しております。

この報告書が、大間町のみならず、周辺地域の歴史研究や文化財保護に活用されることを期待し、最後になりましたが、この調査の実施及び報告書の作成にあたり、御指導・御協力を賜りました関係各位に対し、厚く感謝申し上げます。

平成１４年１月

青森県埋蔵文化財調査センター
所　長　　中島　邦夫

例　言　・　凡　例

1　本報告書は、大間原子力発電所建設事業に伴い平成１２年度に実施した大間町小奥戸（４）遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡の所在地は、大間町奥戸字小奥戸、外である。
県遺跡番号は、５２０２６として登録されている。

3　本報告書の編集執筆は、野村信生が担当し、遺構と遺物の実測図と図版等の作成は、上記職員と調査補助員および室内作業員が行った。

4　石質鑑定については八戸市文化財審議委員　松山力に依頼した。（敬称略）

5　本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土地理院発行の５万分の１地形図を複製したもので、縮尺は変更している。

6　挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。

7　遺物写真の縮尺は、図中に表示した。

8　堆積土の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 1993）を用いた。

9　本稿で使用した遺構の略号は、ＳＫを土坑とした。

10　引用文献については、第４章の後に収めた。

11　発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目　　次

序
例言・凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　調 査 概 要
　第１節　調 査 要 項……1
　第２節　調査の方法……3
　第３節　調査の経過……3

第２章　遺跡の環境
　　立地と周辺の遺跡……5

第３章　遺構と遺物
　第１節　概要……5
　第２節　検出遺構……5
　第３節　出土遺物……7
　　土器……7
　　土製品……7
　　石器……7

第４章　ま　と　め……１１

引用・参考文献
遺物観察表
写 真 図 版

報告書抄録

挿図目次

図１　遺跡位置・・・・・・・・・・２
図２　基本層序・・・・・・・・・・３
図３　遺構配置・・・・・・・・・・４
図４　土坑（ＳＫ１～８）・・・・８
図５　遺構外出土土器・・・・・・９
図６　遺構外出土土器・土製品・１０
図７　遺構外出土石器・・・・・１０

表　目　次

表１　遺構外出土土器・・・・・１２
表２　遺構外出土土製品・・・・１２
表３　遺構外出土石器・・・・・１２

写真図版目次

写真１・・・・・・・・・・・・・１３
写真２・・・・・・・・・・・・・１４
写真３・・・・・・・・・・・・・１５
写真４・・・・・・・・・・・・・１６
写真５・・・・・・・・・・・・・１７
写真６・・・・・・・・・・・・・１８

第1章　調査概要

第1節　調査要項

1　調査目的

大間原子力発電所建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する小奥戸（４）遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

2　遺跡名および所在地　　小奥戸（４）遺跡　（青森県遺跡番号５２０２６）
青森県大間町奥戸字小奥戸、外

3　発掘調査期間　　平成１２年４月１８日～同年５月３１日

4　調査面積　　３，０００平方メートル

5　調査委託者　　電源開発株式会社

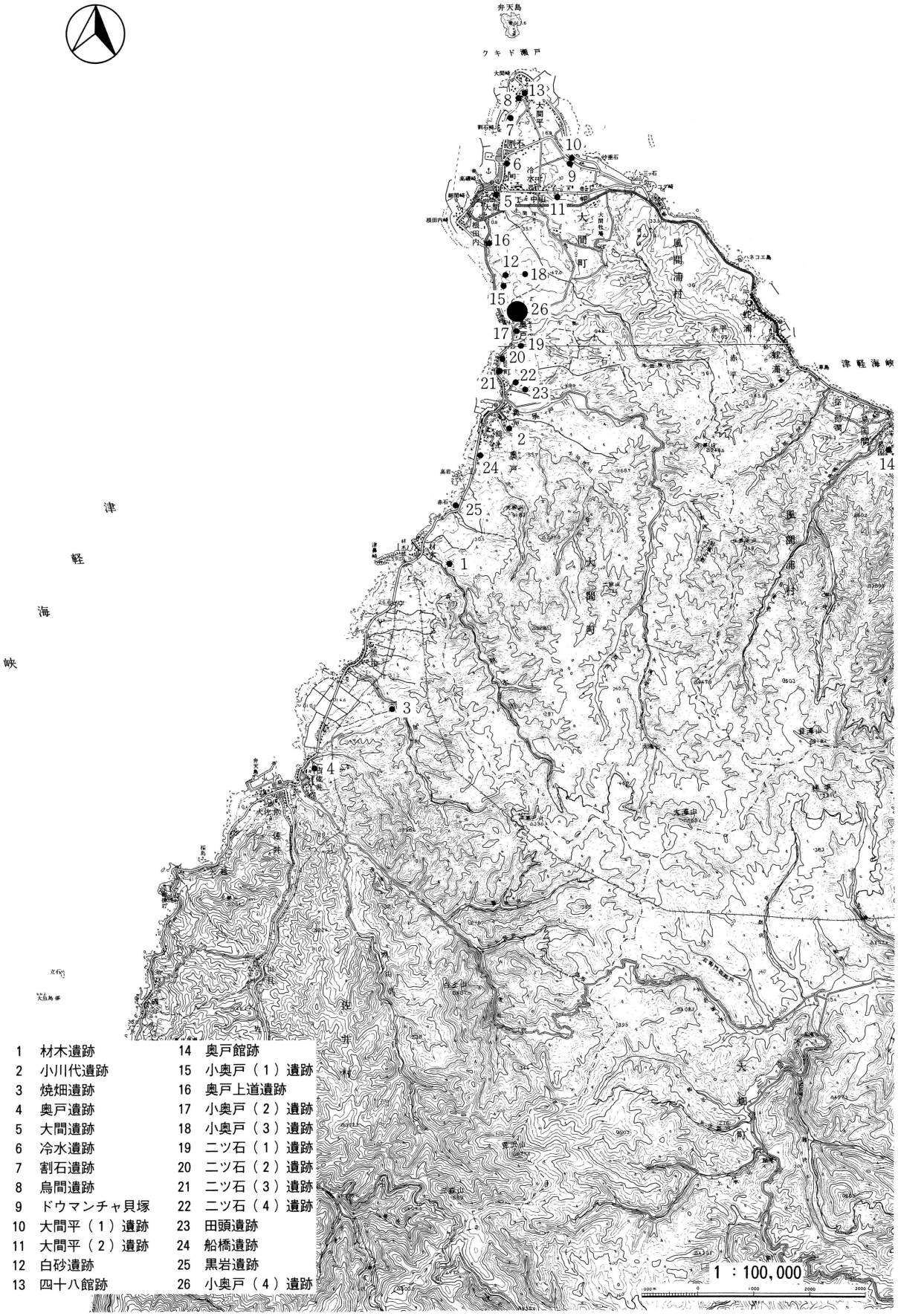
6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査体制

調査指導員　市川　金丸　青森県考古学会会長（考古学）
調　査　員　松山　　力　八戸市文化財審議委員（地質学）
葛西　　励　青森短期大学助教授（考古学）

調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　　長　　中島　邦夫
次　　長　　成田　誠治
総務課長　　西口　良一
調査第三課長　　木村鐵次郎
文化財保護主事　　野村　信生
調査補助員　　工藤　美希　小島由記子　嶋中加那子　細川志穂子



1	材木遺跡	14	奥戸館跡
2	小川代遺跡	15	小奥戸（１）遺跡
3	焼畑遺跡	16	奥戸上道遺跡
4	奥戸遺跡	17	小奥戸（２）遺跡
5	大間遺跡	18	小奥戸（３）遺跡
6	冷水遺跡	19	二ツ石（１）遺跡
7	割石遺跡	20	二ツ石（２）遺跡
8	烏間遺跡	21	二ツ石（３）遺跡
9	ドウマンチャ貝塚	22	二ツ石（４）遺跡
10	大間平（１）遺跡	23	田頭遺跡
11	大間平（２）遺跡	24	船橋遺跡
12	白砂遺跡	25	黒岩遺跡
13	四十八館跡	26	小奥戸（４）遺跡

図１　遺跡位置

第2節　調査の方法

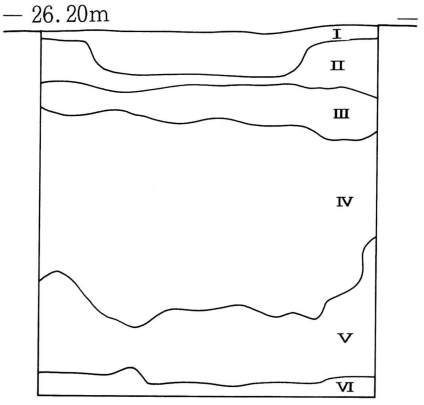
グリッドは平面直角座標系に基づいた5ｍメッシュの方眼とした。Ｘ＝167317・Ｙ＝6782を基点とし、北から南に向けて5ｍごとに算用数字で表示し、西から東に向けて5ｍごとにアルファベットで表示した。算用数字はＸ＝167367を起点ラインとして、北から南に１・２・３……と設定した。アルファベットはＹ＝6782を起点ラインとして、西から東にＡＡ・ＡＢ・ＡＣ……と設定した。

表土除去作業にはバックホーを使用した。表土下は作業員により掘り下げを行い、随時遺構検出を行った。遺構は発見順に遺構名を設定し、原則として１／20で実測図を作成した。遺構以外の出土遺物の取り上げは、層位を確定しグリッド単位で行った。調査にあたっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については上層から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を設定した。

写真撮影は適宜行うこととし、モノクローム、カラーリバーサル、カラーネガの各種類のフィルムを使用した。

第3節　調査の経過

調査は平成12年４月18日に開始した。NO, D187（Ｘ＝167272、Ｙ＝6772）を基準として、調査区内にNO, D187-1（Ｘ＝167272、Ｙ＝6807）を設置した。この平面直角座標系を基点として調査区内に５ｍのグリッドを設定した。４月下旬にはトレンチを設定し、遺構・遺物の出土状況を確認した。土坑・柱穴が確認され、また土師器片・紡錘車・石器が確認されたことから、バックホーにより調査区全域の表土を除去した。５月24日から重機による調査区の埋め戻し作業を行った。調査は５月下旬にはほぼ終了し、５月31日に撤収した。



基本層序

Ⅰ層	10YR1.7/1	黒色土	（表土）
Ⅱ層	10YR2/1	黒色土	
Ⅲ層	10YR2/1	黒色土	（漸移層）
	10YR4/6	褐色土30％	
Ⅳ層	10YR4/6	褐色土	（ローム層）
	10YR3/4	暗褐色土５％	
Ⅴ層	10YR4/6	褐色砂質土	
	7.5YR4/6	褐色土40％	
	7.5YR5/8	明褐色土10％	
Ⅵ層	7.5YR5/8	明褐色土	（砂礫層）

図2　基本層序　（1：40）

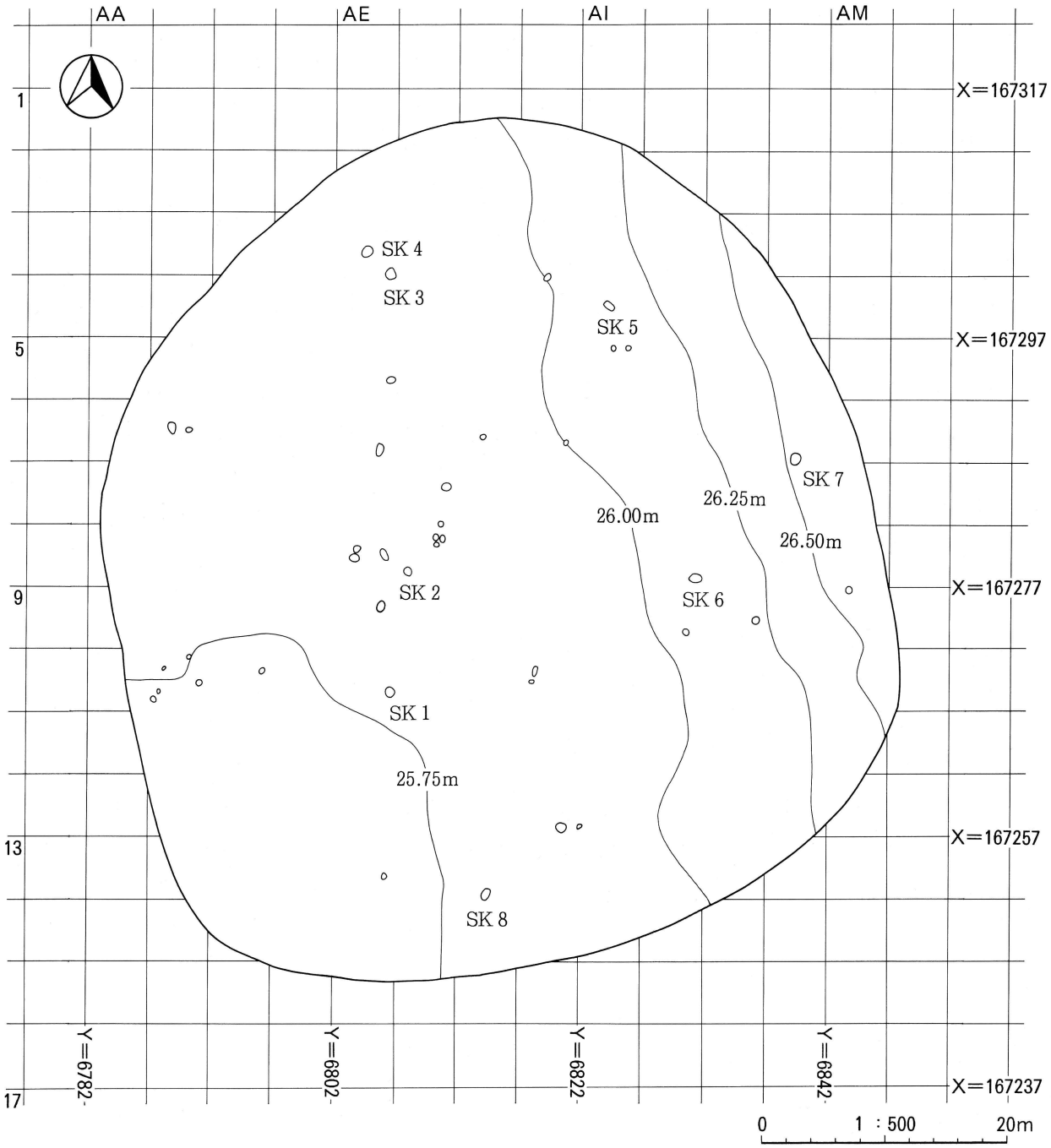

AA
AE
AI
AM
1
5
9
13
17
X=167317
X=167297
X=167277
X=167257
X=167237
Y=6782
Y=6802
Y=6822
Y=6842
SK 1
SK 2
SK 3
SK 4
SK 5
SK 6
SK 7
SK 8
25.75m
26.00m
26.25m
26.50m
0
1：500
20m

図3　遺構配置

第２章　遺跡の環境

立地と周辺の遺跡

小奥戸（４）遺跡は、本州最北端である大間崎南方約4.3km、津軽海峡に面した標高約26ｍの海岸段丘上に位置する。海岸段丘は西吹付山麓から続く平地に形成され、遺跡の北側には小奥戸川、南側に奥戸川と豊かな水源に恵まれる。また、海岸まで約250ｍと近く、豊かな海産物にも恵まれた場所である。

大間崎周辺は海岸段丘が発達しており、大矢・市瀬（1957）が以下のとおり区分している。海抜160～150ｍを高位平坦面上位・下位海抜110～90ｍを高位平坦面下位、海抜90～70ｍを第３段丘、海抜50～40ｍを第３段丘・第４段丘中間面、海抜40～20ｍを第４段丘、海抜20～10ｍを第５段丘。この区分によると小奥戸（４）遺跡は第４段丘に相当する。

遺跡内の層序は安定しており、図２の通りである。黒色土の堆積は薄くⅠ・Ⅱ層に分かれ、Ⅱ層を中心に土師器等の遺物が出土した。ローム漸移層をⅢ層とし、遺構検出を行った。

大間町内の遺跡は、1998年刊行の『青森県遺跡地図』によると26箇所登録されている。遺跡は海岸段丘上の縁辺部に形成され、小奥戸川下流域と奥戸川下流域周辺の海岸段丘上に集中する。遺跡の北西側約500ｍに小奥戸（１）遺跡、南側約350ｍに小奥戸（２）遺跡、北側約700ｍに小奥戸（３）遺跡が所在する。また北海道系である擦文土器が出土した遺跡は、奥戸遺跡・大間遺跡・割石遺跡・小奥戸（１）遺跡の４遺跡である。

第３章　遺構と遺物

第１節　概　　要

小奥戸（４）遺跡からは、土坑・柱穴が出土した。共伴する遺物がないため、明確な時期を確定するのは困難である。検出はⅢ層上面で行った。検出面からの掘り込みが浅く、明確に機能を把握できるものがないため、一部の土坑のみ記載した。なお遺構配置図には全ての遺構を記載した。遺物はⅡ層を中心に、土師器・土製品・石器が少量出土した。土師器は細片のみで、器形を復元できるものは出土しなかった。土製品は紡錘車が２点、石器は有茎石鏃が１点、使用痕がある剥片が４点出土した。

第２節　検 出 遺 構

第１号土坑（図４）

［位置］標高25.84ｍのＡＥ10グリッドに位置する。

［規模・形状］長軸80×短軸68×深さ16㎝である。平面は楕円形、底面は平坦で壁はやや外傾する。
［堆積土］黒褐色土が主体となる自然堆積である。

第２号土坑（図４）
［位置］標高25.90ｍのＡＦ８グリッドに位置する。
［規模・形状］長軸68×短軸60×深さ26㎝である。平面は円形、底面は若干起伏し、壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第３号土坑（図４）
［位置］標高25.84ｍのＡＥ３・４グリッドに位置する。
［規模・形状］長軸88×短軸80×深さ20㎝である。平面は不整形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第４号土坑（図４）
［位置］標高25.84ｍのＡＥ３グリッドに位置する。
［規模・形状］長軸100×短軸76×深さ20㎝である。平面は円形、底面は有段となるがほぼ平坦で壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第５号土坑（図４）
［位置］標高26.06ｍのＡＩ４グリッドに位置する。
［規模・形状］長軸92×短軸48×深さ16㎝である。平面は隅丸方形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第６号土坑（図４）
［位置］標高26.10ｍのＡＪ８グリッドに位置する。
［規模・形状］長軸94×短軸68×深さ22㎝である。平面は楕円形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第７号土坑（図４）
［位置］標高25.54ｍのＡＬ６グリッドである。
［規模・形状］長軸96×短軸84×深さ10㎝である。平面形は円形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。
［堆積土］自然堆積である。

第８号土坑（図４）

［位置］標高25.84mのＡＪ13グリッドに位置する。

［規模・形状］長軸98×短軸56×深さ24cmである。平面形は楕円形、底面が起伏し、壁はやや外傾する。

［堆積土］自然堆積である。

第３節　出土遺物

土器（図５・６－１～30）

土師器のみの出土で、坏・甕が確認できた。ここでは細片が少量出土したのみなので、細かな分類はさけ、器種別に報告する。

坏（図５－４～９・12）

全て非ロクロ成形である。４・６は口縁部下に段をもつ。４は口縁部に回転ナデ、体部と内面にミガキを施す。５～８は内外面にミガキを施す。９は内外面にナデを施す。12は外面にナデ、内面にミガキを施す。６は内面に黒色処理が施され、４・５・８・９・12は薄く、７はさらに薄く黒色処理が施される。

甕（図５・６－１～３・10・11・13～30）

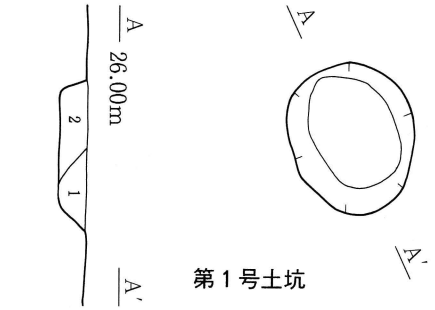
全て非ロクロ成形である。26～30は同一個体である。口唇部の断面は三角形・平坦・沈線を施すものがある。調整は口縁部に回転ナデ・ナデを施す。体部と底部はミガキ・ナデ・ケズリ・ハケが施される。内面にはミガキ・ナデが施される。

土製品（図６－31・32）

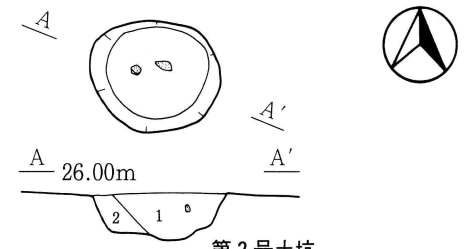
２点の紡錘車が出土した。外面にナデ調整を施す。

石器（図７）

５点出土した。１は有茎石鏃、２～５は使用痕がある剥片である。

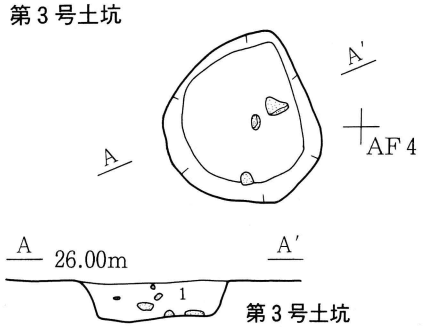


第1号土坑
第1層　10YR2/3　黒褐色土
第2層　10YR2/2　黒褐色土

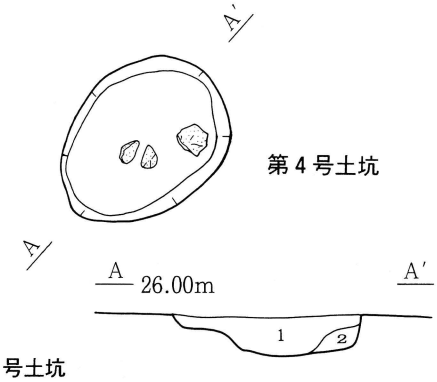


第2号土坑
第1層　10YR3/1　黒褐色土
第2層　10YR3/4　暗褐色土

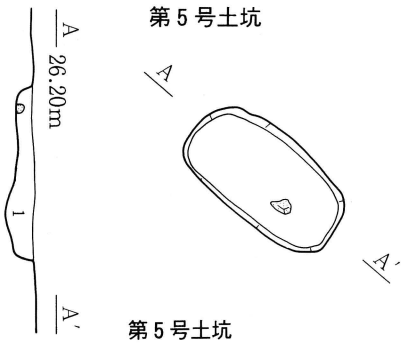
第3号土坑



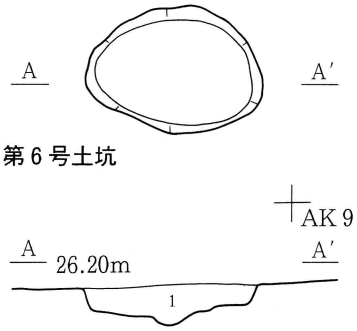
第3号土坑
第1層　10YR2/1　黒色土



第4号土坑
第1層　10YR2/1　黒色土
第2層　10YR3/3　暗褐色土

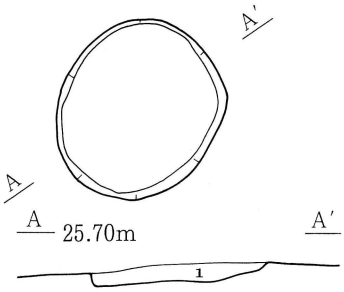


第5号土坑
第1層　10YR2/1　黒色土

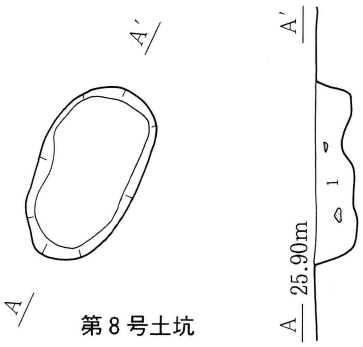


第6号土坑
第1層　10YR2/1　黒色土

第7号土坑



第7号土坑
第1層　10YR2/1　黒色土



第8号土坑
第1層　10YR2/2　黒褐色土

0　1：40　2m

図4　土　　坑

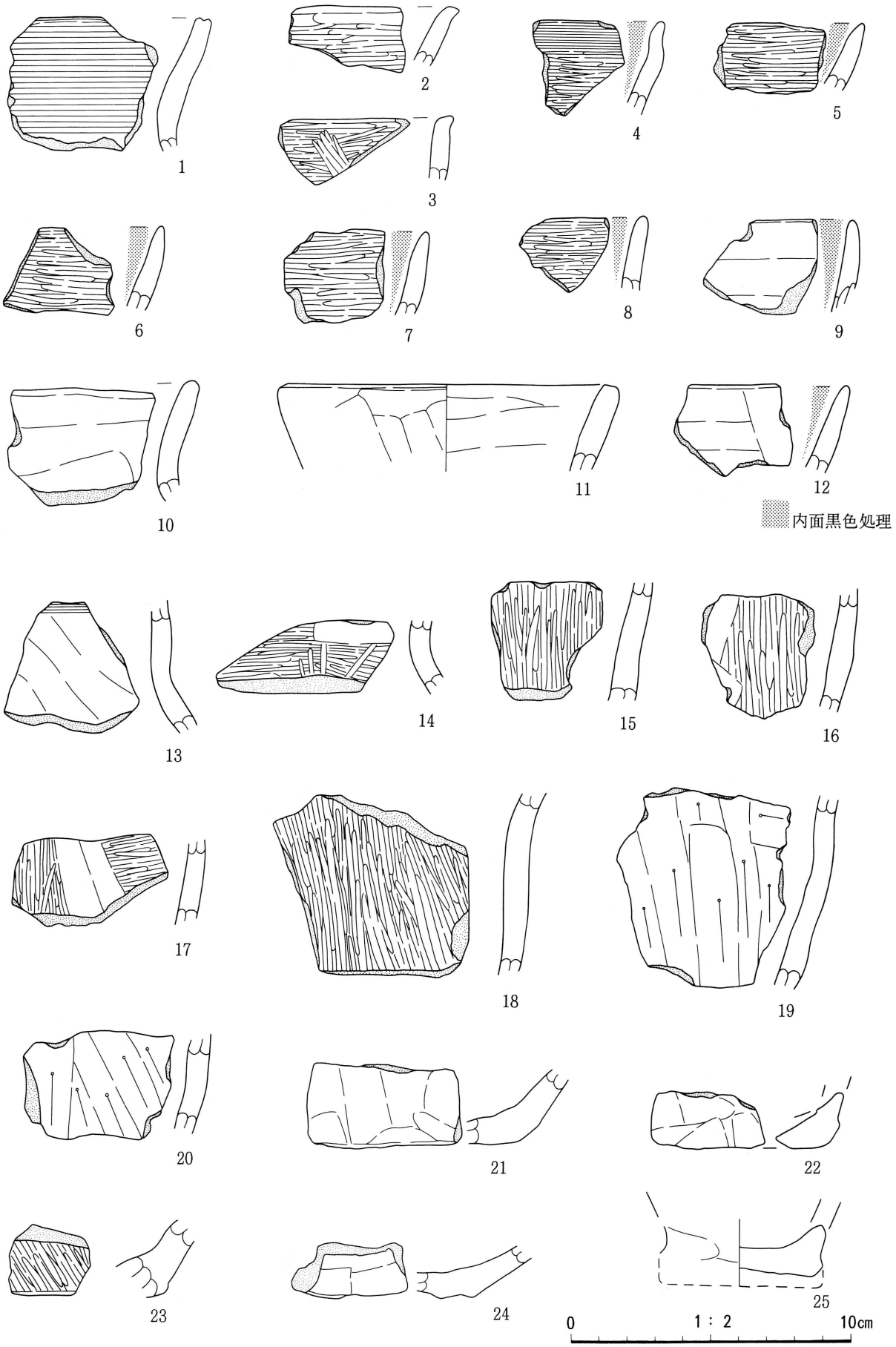

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
内面黒色処理
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
0
1：2
10cm

図５　遺構外出土土器

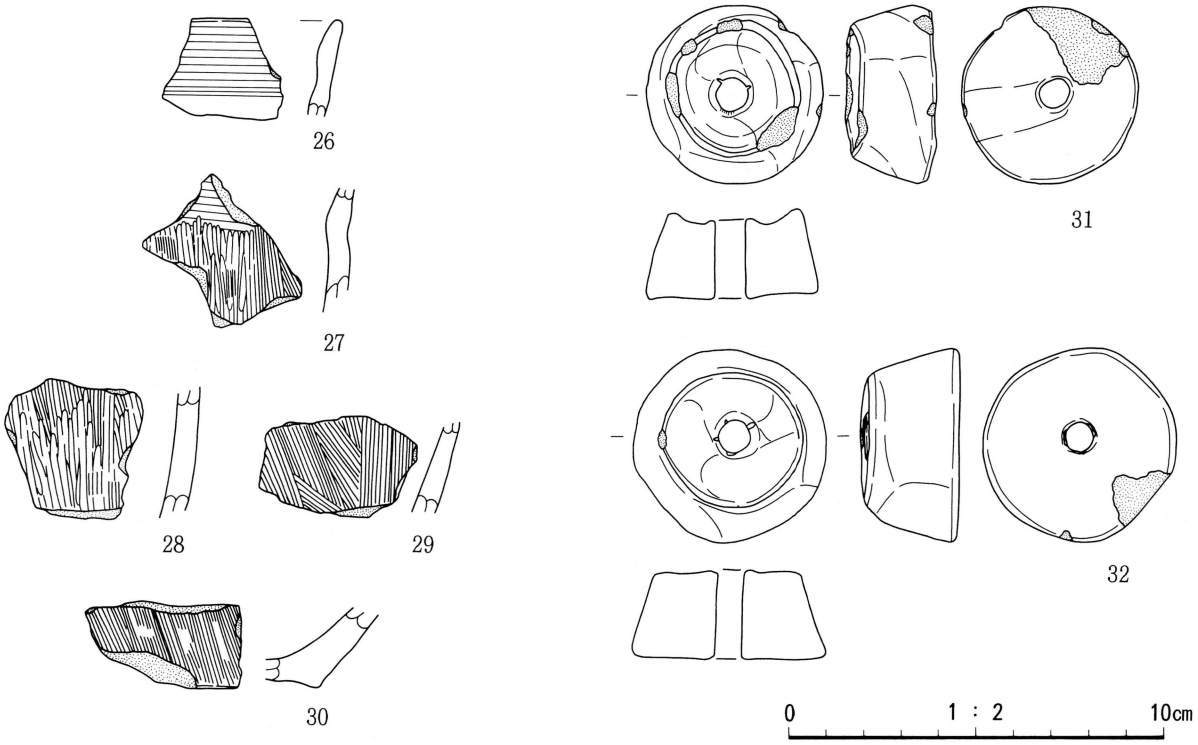


図6　遺構外出土土器

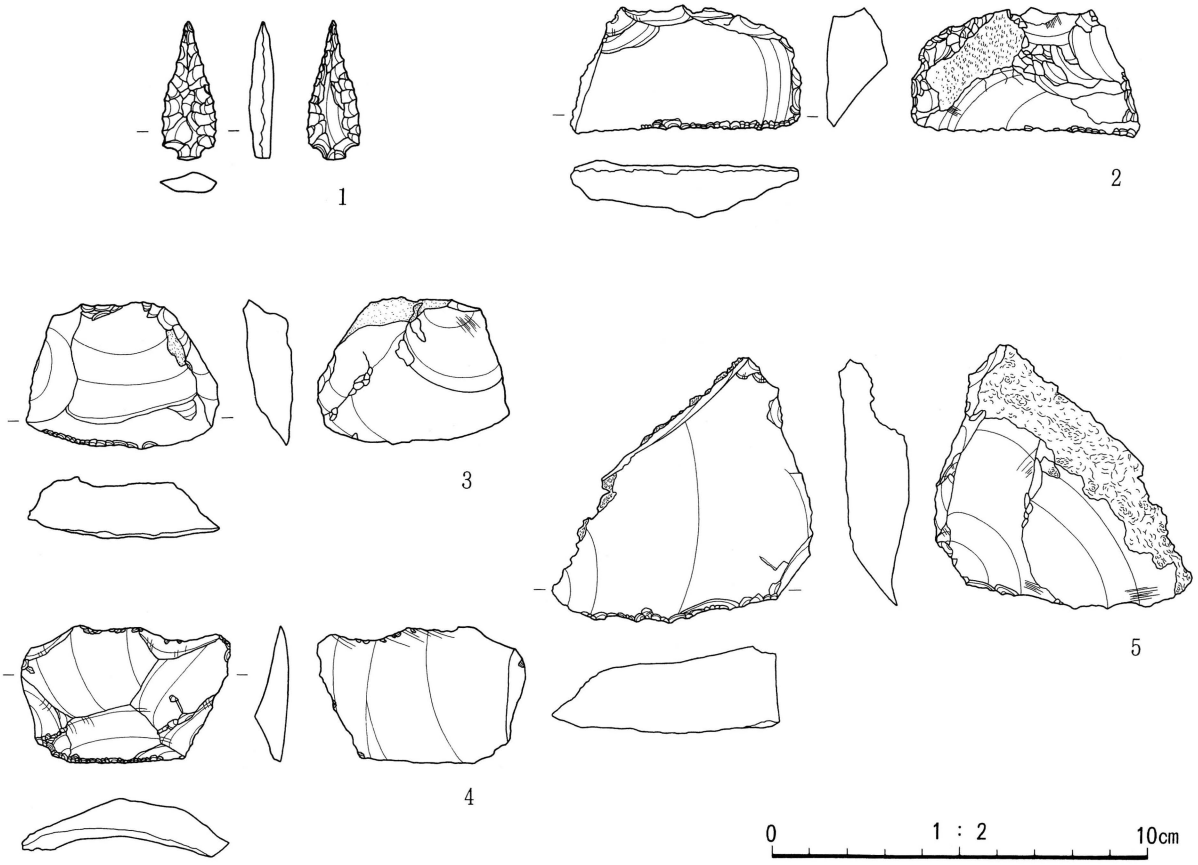


図7　遺構外出土石器

第4章　ま　と　め

平成12年度調査の小奥戸（４）遺跡からは、土坑・柱穴、少量の土器・土製品・石器が出土した。

遺物はⅡ層を中心に出土したが、黒色土であったため遺構検出は困難であり、Ⅲ層上面で検出した。検出面からの遺構の掘り込みは浅く、共伴する遺物は出土しなかった。また配置に規則性はなく、機能を把握することができるものはなかった。Ⅱ層から遺物が出土することから、本来はⅡ層中から掘り込まれたと考えられる。遺構の時期に関しては、共伴する遺物がないため明確な時期は不明である。

土器は土師器のみが出土し、坏・甕の２器種が確認できた。坏は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。器壁は厚く、口縁部下が若干屈曲し段を有するものもある。内面は黒色処理が施されるが、色の濃淡が３つに分類される。甕は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ・ケズリ・ハケ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。細片資料であるため部分的な特徴であるが、坏の非ロクロ成形、甕の口唇部にみられる沈線等から、７世紀後葉～８世紀中葉（飛鳥・奈良時代）と考えられる。土製紡錘車についてもⅡ層から出土しているため、同時期と考えるのが妥当と思われる。石器については、平成９年度の青森県埋蔵文化財調査センターの調査で、縄文時代晩期末～弥生時代初頭と考えられる土器片が出土していることから、同時期の可能性が考えられる。

今回の調査では、集落の中心的場所ではないが、人間の活動の痕跡が確認された。

引用・参考文献

青森県教育委員会　1992　『小奥戸（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第154集
青森県教育委員会　1995　『白砂遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第189集
青森県教育委員会　1998　『小奥戸（２）遺跡　小奥戸（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第240集
大間町教育委員会　1993　『大間町二ツ石２遺跡』大間町文化財調査報告書第６集

表１　遺構外出土土器

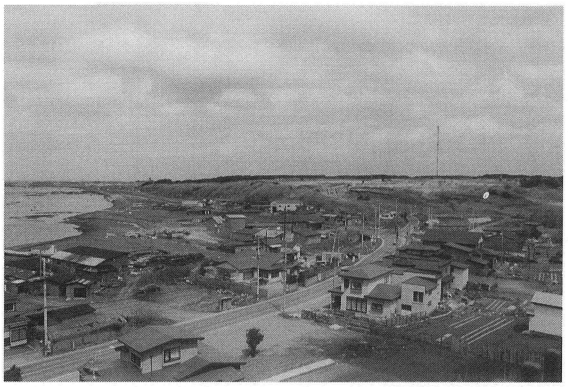
図版番号	グリッド	層位	器種	外面色調	外面調整	内面調整	備　　考
5－1	ＡＥ－6	Ⅱ	甕	7.5YR6／6橙	回転ナデ	ナデ	
－2	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR6／4にぶい黄橙	ミガキ　ナデ	ミガキ	
－3	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	7.5YR5／4にぶい褐	ミガキ	ミガキ	
－4	ＡＥ－5	Ⅱ	坏	10YR4／2灰黄褐	回転ナデ　ミガキ	ミガキ	内面黒色処理（薄）
－5	ＡＥ－5	Ⅱ	坏	7.5YR6／6橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理（薄）
－6	ＡＥ－5	Ⅱ	坏	10YR6／4にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理（濃）
－7	ＡＥ－5	Ⅱ	坏	7.5YR6／4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理（さらに薄）
－8	ＡＥ－5	Ⅱ	坏	10YR4／2灰黄褐	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理（薄）
－9	ＡＥ－8	Ⅱ	坏	5YR6／6橙	ナデ	ナデ	内面黒色処理（薄）
－10	ＡＨ－9	Ⅱ	甕	7.5YR6／4にぶい橙	ナデ	ナデ	
－11	ＡＥ－5	Ⅰ	甕	7.5YR6／6橙	ナデ	ナデ	口径11.3（cm）
－12	ＡＥ－6	Ⅱ	坏	10YR6／4にぶい黄橙	ナデ	ミガキ	内面黒色処理（薄）
－13	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	5YR6／6橙	ナデ　回転ナデ	ナデ	
－14	ＡＥ－5	Ⅰ	甕	5YR5／4にぶい赤褐	ミガキ　ナデ	ナデ	
－15	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR3／2黒褐	ミガキ	ナデ	
－16	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	7.5YR4／6褐	ミガキ　ナデ	ナデ	
－17	ＡＨ－9	Ⅱ	甕	10YR4／3にぶい黄褐	ミガキ　ナデ	ナデ	外面煤状炭化物付着
－18	ＡＥ－6	Ⅱ	甕	7.5YR5／6明褐	ミガキ	ナデ	
－19	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR6／4にぶい黄橙	ケズリ	ナデ	
－20	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR5／4にぶい黄褐	ケズリ	ナデ	
－21	ＡＨ－9	Ⅱ	甕	7.5YR5／4にぶい褐	ナデ	ナデ	
－22	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	7.5YR6／4にぶい橙	ナデ	不明	
－23	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR3／1黒褐	ミガキ	ナデ	
－24	ＡＥ－5	Ⅱ	甕	10YR5／2灰黄褐	ナデ	ミガキ	底面ケズリ
－25	ＡＨ－9	Ⅱ	甕	7.5YR6／4にぶい橙	ナデ	ナデ	
6－26	ＡＦ－10	Ⅱ	甕	5YR4／6赤褐	回転ナデ	回転ナデ	26～30同一個体
－27	ＡＦ－10	Ⅱ	甕	5YR4／4にぶい赤褐	回転ナデ ハケ　ミガキ	ナデ	
－28	ＡＦ－10	Ⅱ	甕	5YR4／4にぶい赤褐	ハケ　ミガキ	ナデ　ミガキ	
－29	ＡＦ－10	Ⅱ	甕	5YR4／4にぶい赤褐	ハケ	ナデ	外面煤状炭化物付着
－30	ＡＦ－10	Ⅱ	甕	5YR4／6赤褐	ハケ	ミガキ	

表２　遺構外出土土製品

図版番号	グリッド	層位	色　　調	調　　整
6－31	ＡＥ－5	Ⅱ	7.5YR5／6明褐	ナデ
－32	ＡＥ－6	Ⅱ	7.5YR4／6褐	ナデ

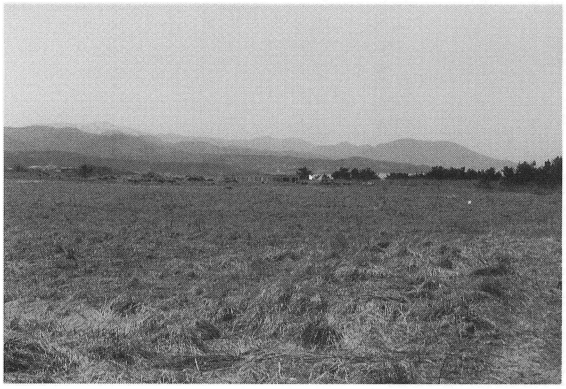
表３　遺構外出土石器

図版番号	グリッド	層位	器種	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石材
7－1	AE－12	Ⅱ	有茎石鏃	37	14	7	37	珪質頁岩
－2	AF－3	Ⅳ	使用痕がある剥片	35	60	15	27.6	珪質頁岩
－3	AE－5	Ⅲ	使用痕がある剥片	39	51	16	24.3	珪質頁岩
－4	AB－10	Ⅱ	使用痕がある剥片	55	36	9	17.1	珪質頁岩
－5	不明	Ⅱ	使用痕がある剥片	70	68	23	77.7	珪質頁岩



遺跡遠景

遺跡遠景

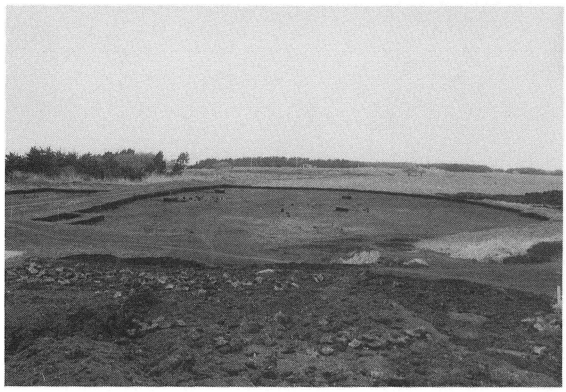


遺跡近景

周辺風景

周辺風景

基本層序

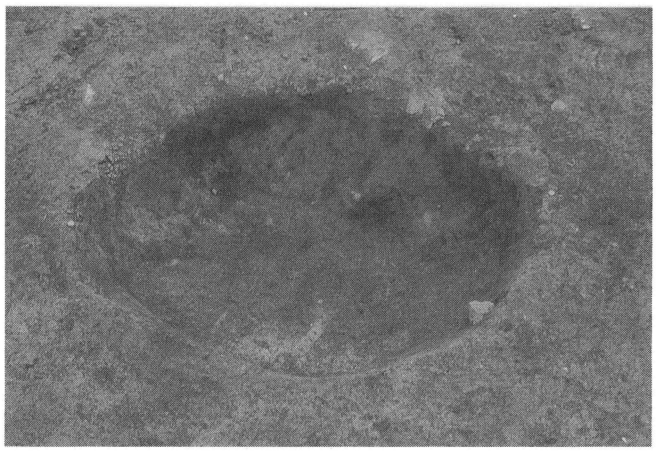


遺跡全景

遺跡全景

写 真 1

第1号土坑断面



第1号土坑完掘

第4号土坑完掘

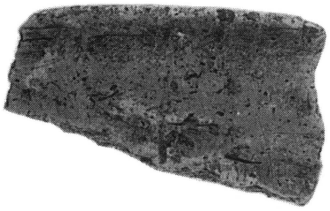
写　真　2

第3号土坑断面

第3号土坑完掘

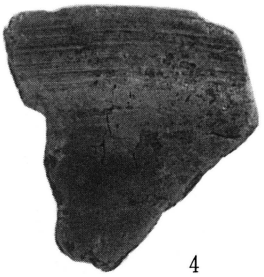
第7号土坑完掘

写 真 3



2

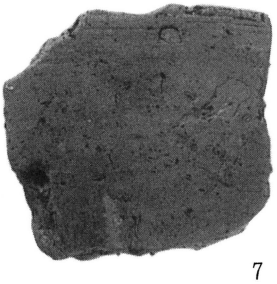
3



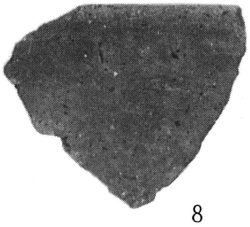
4

5

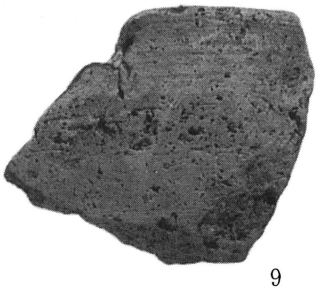
6



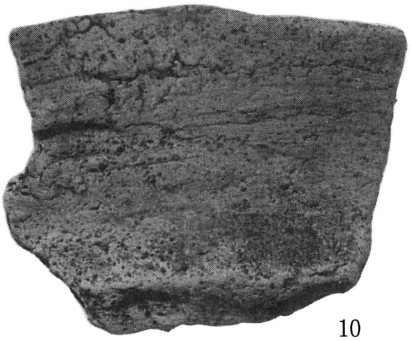
7



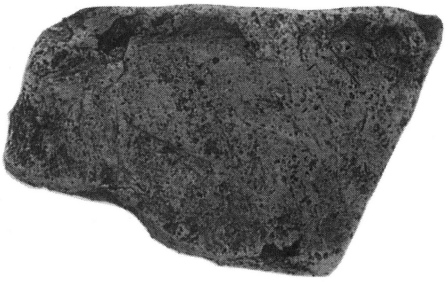
8



9



10



11

S＝1／1

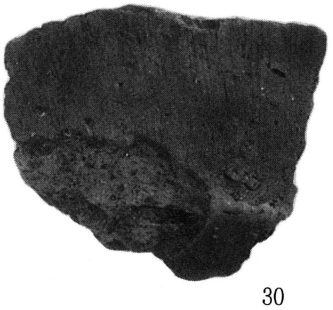
写　真　4

12

18

19

29



30

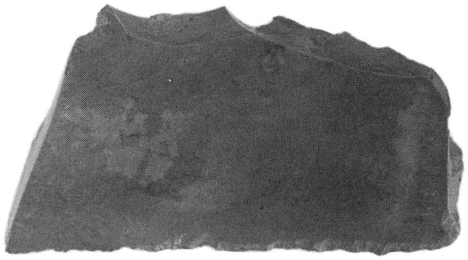
S= 1／1

写 真 5

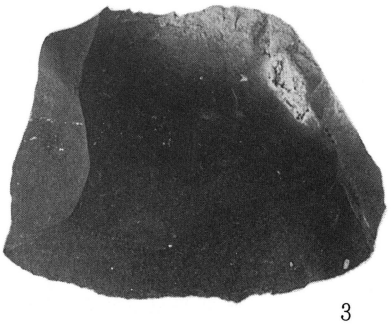
31

32

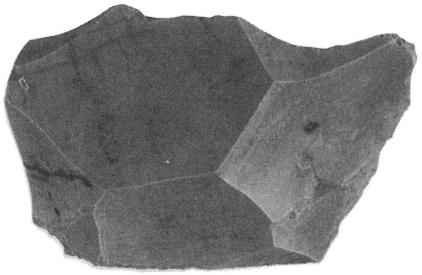
1



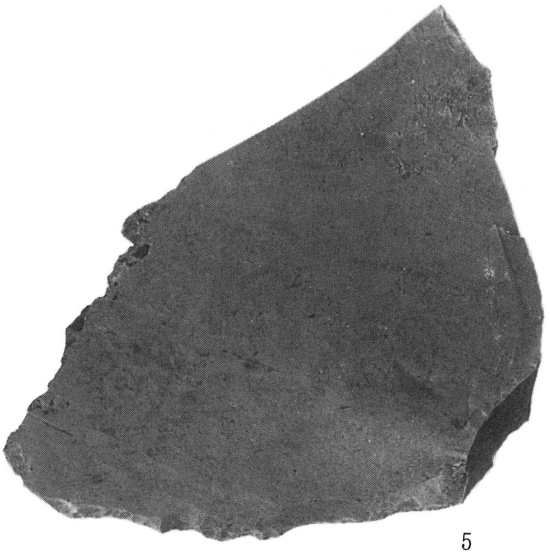
2



3



4



5

S＝1／1

写　真　6

報告書抄録

ふ り が な	こおこっぺかっこよんいせき
書　　名	小奥戸（４）遺跡
副　書　名	大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
巻　　次	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第３１４集
編 著 者 名	野村　信生
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒038-0042　青森市大字新城字天田内152-15　TEL　017(788)5701 FAX　017(788)5702
発行年月日	２００２年1月２５日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
小奥戸（４）遺跡（こおこっぺかっこよんいせき）	青森県下北郡大間町大字奥戸字小奥戸地内（あおもりけんしもきたぐんおおまちおおあざおこっぺあざこおこっぺちない）	02423	５２０２６	41° 30′	140° 54′	20000418 ～ 20000531	3,000	大間原子力発電所建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小奥戸（４）遺跡	散布地	縄文 飛鳥奈良		石器 土師器	

青森県埋蔵文化財調査報告書　第３１４集

小 奥 戸 （4） 遺 跡

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　２００２年1月２５日
発　　行　青森県教育委員会
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042 青森市大字新城字天田内152－15
TEL 017－788－5701　FAX 017－788－5702
印 刷 所　高金印刷株式会社
〒038－0015　青森市千刈２丁目１－30
TEL 017－781－0519・2244　FAX 017－781－2509

活彩あおもり

—輝くあおもり新時代—